

# ベレーシート

～聖書のトリセツ～

## はじめに

【新改訳改訂3】

創世記 1:1 「初めに、神が天と地を創造した。」

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ:

今回は聖書に記された最初の言葉、すなわち創世記 1:1「初めに」と訳されているヘブル語、ベレーシート(בְּרֵאשִׁית)という言葉を取り上げ、なぜ神はこの言葉から聖書を書き始められたのかというその理由と必然性について、またこの言葉の持つ隠された意味について述べたいと思います。この言葉は、文法的には前置詞のベ(בְּ)「～に(時間)、～で(場所)、～によって(方法)、～のうちに、～とともに(状態)、～をもって(道具)」という様々な意味を持つ言葉と、「頭、かしら」を意味する名詞ローシュ(רֹשׁ)の派生語レーシート(רֵאשִׁית)「初め、初物、最上の物」という意味の二つの言葉からなるのが創世記 1:1 のまさに初めの言葉「初めに」ベレーシートです。しかしヘブル語は象形文字、つまり何かを象った絵が文字となったものであり、私たちが使う漢字のように、単語や文章にならなくても、その文字一つだけでも何らかの意味を持っています。たとえば最初の文字ベート(ב)は、「家」を象った文字で、そこから派生して「家族、国家、国民」という意味を持っています。ですからこのベレーシートという言葉は、ベート(ב)、レーシュ(ר)、アーレフ(א)、シーン(ש)、ヨッド(י)、ターヴ(ת)の六つの文字からなる言葉と言え、そしてこれらの文字の一つひとつの持つ意味が合わさった言葉と言えます。この捉え方によって導き出される意味は、他の言語には訳されていない、いや訳すことのできない、つまりヘブル語でしか知ることのできない聖書のメッセージとなります。まずは下の表を見てください。

ベレーシート「初めに」					
ת	י	ש	א	ר	ב
ターヴ	ヨッド	シーン	アーレフ	レーシュ	ベート
印	手	歯	神	頭	家
選び、終わり、完成	御力、御業	食べる、身体、 交わり	初め(第一)、 裁き	思考、計画、 かしら(王)	家族、国家、 国民
			エーシュ(שׁוֹ)「火、炎」	バル(בַּר)「息子、子ども」	
			シャイ(שׂוּ)「贈り物」	バーラー(בָּרָא)「創造する」	
シート(שִׁיט)「置く、～とする」、 シャイト(שִׁיטוֹ)「いぼら、おどろ」					

ベレーシート(תִּשְׁאֵרֶת)を構成する六つのヘブル文字と、その文字が象るものから表されるそれぞれの意味を記しました。またこれらの文字を二つないし三つ括りにすることで、更にいくつかの言葉が隠されていることが解ります。このように文字をつなげたり分けたり、まるでパズルゲームのような感覚で、新たな意味を導き出していく試みが、ヘブル的な聖書研究、ヘブル・ミドゥラーシュの方法の一つです。イスラエルのラビたちは、古くからこの方法によって、翻訳された聖書を読む私たちには到底理解し得ない多くの知識、神様に関する情報を得ていました。今回はこのベレーシートから、そのほんの一端を垣間見たいと思います。

## 1. 「神の国をまず第一に求める」

まずベレーシートの最初の文字、つまり聖書に記された正真正銘の最初の文字であるベート(ב)について。これは「家」を象った文字ですが、それは人が住むただの家ではなく、神が建てる家、神の家、神殿、神の国、御国を指し示しています。これが聖書に記された最初の文字であることに大きな意味があります。まさに

### 【新改訳改訂3】

マタイ 6:33 **神の国**とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

と言われたイエシュアの御言葉と見事に一致します。この神の国を「思い、考える」ことを、「頭」を象った次の文字レーシュ(ר)が表しています。そしてそれに続くアーレフ(א)はそれが「初め、第一」であることを示し、次のシーン(ש)は「歯」を象り「食べる」こと、そして食物によって生かされる「身体（健康）」を意味し、誰もが「求める」ものの象徴であると言えます。このように、ベート、レーシュ、アーレフ、シーンの中に「神の国を思い、それを第一に求める」ことが指し示されています。そして「手」を象ったヨッド(י)は神の御手を表し、その御業によって与えられるものが「印」を象ったターヴ(ת)です。ヨハネの黙示録 7:3 に額に「印」を押された神のしもべたちのことが記されていますが、それはまさに神の「選び」すなわち救いを意味し、それは同時にこの「印」が「完成」した神の国の国民となることを指し示しています。この神の国には、私たち人の求めるすべてがあります。まさに「これらのものはすべて与えられます。」ということが表されていると言えます。このようにベレーシートという言葉には「神の国(ב)を思い(ר)、第一に(א)求める(ש)者は、神の御手(י)に選ばれる者(ת)である」という意味が表されていると考えられます。

## 2. 「エルサレム」

次に先ほどの表を見てください。シーン(ש)とヨッド(י)を一括りと見るならば、シャイ(יָשׁוּ)「贈り物」という意味の言葉を見つけることができます。このシャイの最初の言及すなわち聖書で最初に使われた箇所を見ましょう。

### 【新改訳改訂3】

詩篇 68:29 エルサレムにあるあなたの宮のために、王たちは、あなたに**贈り物**を持って来ましょう。

ベート(ב)は「神の家」と述べました。それは具体的にはここに記されている「エルサレムにある宮」であるということ、このシャイという言葉が指し示していると考えられます。「エルサレムにある宮(ב)に、王たち(ג)は、あなたに(ד)、贈り物(ה)を持って来る」こと、そしてそれが「神の御業(ו)」の「完成(ז)」された姿であることが、この詩篇 68:29 とベレーシートによって解き明かすことができると考えられます。

### 3. 「敵意を置く」

またベレーシートの後ろの三文字を括ると、シート(תש)「置く、～とする」という動詞と、シャイト(תש)「いばら、おどろ」という名詞を見つけることができます。この二つの言葉のそれぞれの最初の言及についても見てみましょう。

#### 【新改訳改訂3】

創世記 3:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

イザヤ 5:6 わたしは、これを滅びるままにしておく。枝はおろされず、草は刈られず、いばらとおどろが生い茂る。わたしは雲に命じて、この上に雨を降らせない。」

この二つの御言葉から、神の国(ב)のご計画(ג)とは、神(ד)がサタンに敵意を置き(ה)、これを「滅びるままに」される、ということがこのベレーシートの中に表されているとも考えられます。

### 4. 「燃えているたいまつ」

またベレーシートの六文字の真ん中の二文字に、エーシュ(ש)「火、炎」という意味の言葉を見つけることができます。この最初の言及を見てみましょう。

#### 【新改訳改訂3】

創世記 15:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。

15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。

この御言葉は神がアブラムと交わされた約束、契約です。ここで切り裂かれた雌牛、雌やぎ、雄羊の間、すなわち真ん中を通り過ぎた「燃えているたいまつ」がエーシュです。それがまさにこのベレーシートの文字の真ん中に記されたエーシュに表されています。

ת      ,      ש      א      ג      ב

そしてその交わされた契約とは、アブラムの子孫、すなわちイスラエルの民、ユダヤ人に「エジプトの川から…ユーフラテス川まで」の土地を与えることでした。この約束は聖書に記されたイスラエルの歴史においても、今日に至ってもまだ一度も果たされていません。ですからこの約束が果たされることこそが、「神の国(𐤎)」の「ご計画(𐤇)」であり、「神の御業(\*)」の「完成(𐤏)」する時であるということが示されていると考えられます。



## 5. 「イエシュア」

そして「神の国(𐤎)」の「王(𐤇)」この二つの文字を合わせると、バル(𐤁𐤃)「息子、子ども」となり、これが神の御子であるイエシュアを指し示していることは明白です。ルカ 12:49 でイエシュアはご自分の働きについてこのように語っておられます。

### 【新改訳改訂3】

ルカ 12:49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。

神の御子、バル(𐤁𐤃)「息子、子ども」であるイエシュアは、この地にエーシュ(𐤅𐤏)「火、炎」を投げ込む(\*)ために来られたことが示されていると考えられます。そしてこの「火」とは、「選ばれた者(𐤏)」に与えられる「聖霊の火」とも解釈できますし、「終わり(𐤏)」の日に獣の刻印(𐤏)を押された敵を焼き尽くす「火」とも解釈できます。

また「火」はいけにえをささげる際にも用いられますから、「神の御子(𐤁𐤃)」が、全焼のいけにえ(𐤅𐤏)となって、「神の御業(\*)」は「完成、完了(𐤏)する」という、まさしくイエシュアの十字架を指し示す内容もまたこのベレーシートの中に表されていると考えられます。

## 6. 「再創造」

さらにベレーシートの最初の三文字を括ると、バーラー(𐤁𐤃𐤇)「創造する」という動詞を見つけることができます。先ほどシート(𐤏𐤅)「置く、～とする」という動詞と、シャイト(𐤏𐤅)「いばら、おどろ」という名詞について「敵意を置いて滅ぼす」という意味があると述べました。ですからベレーシートには「創造して滅ぼす」つまり「神はお創りになったものを一度壊す」というメッセージがあると考えられます。ここでヘブル語の創世記 1:1 の、ベレーシートの後に続く文を見てみましょう。



このように、ベレーシート(בראשית)の後に、通常「創造した」と訳されるバーラー(ברא)が記されています。しかし赤い字で色分けして見るならば、「創造し、滅ぼし、再び創造される神」という意味にも受け取ることができます。これは神様のご計画の根幹となる内容です。すなわち神はエデンにおいて保たれていた人との関係を、サタンを、罪と死を「滅ぼし」て、「再び」回復しようとしておられ、またアブラハムの子孫であるイスラエルの民を起こし、しかし彼らの不信の罪のゆえに一度「滅ぼし」、そして終わりの日の「再び」この国を起こそうとしておられ、また御子イエシュアに人として肉体を持たせ、十字架によってこれを「滅ぼさ」せ、しかし三日目に「よみがえらせ」たように、神を信じるすべての人にも、朽ちる身体が「滅びた」後に、「再び」肉体を、しかし次には朽ちることのない永遠の肉体をお与えになるという、復活のご計画を持っておられる、まさに「創造し、滅ぼし、再創造される神」であるという真理が、このベレーシート「初めに」というヘブル語の中に表されていると考えられます。

【新改訳改訂3】

ガラテヤ 6:15 …大事なのは新しい創造です。

## 7. 聖書のトリセツ

このように、日本語の聖書では「初めに」という何の変哲もない言葉が、ヘブル語のベレーシートには神様のご計画の全体を網羅するような、多くの重要な情報とメッセージが詰め込まれていることが解ります。そしてこの言葉が聖書という書物の、最初に「初めに」置かれたということは、それが聖書を読み解く上でいかに重要であるかということだと言えます。それはたとえるなら聖書という名の製品のトリセツ、「取り扱い説明書」だと言えます。この製品は一般的な書物という形態をとっていますから、このトリセツなしでもある程度は使いこなすことができます。しかしその本来の力、ポテンシャルを引き出すには、このベレーシートという名のトリセツが必要なのです。ですから聖書とは、ベレーシートに示されたこれらの神の国のご計画を、まさに「初めに」理解した上で読む必要があると思われれます。

「使用上の注意をよく読み、用法、用量を守って正しくお使いください」…ピンポン(笑)